

2013年 第9回 長野摂食・嚥下リハビリテーション研究会

テーマ：脳卒中急性期から慢性期への対応と食支援

日時 12月7日(土) 14:00～17:30

場所 レザンホール

〒399-0738 長野県塩尻市大門七番町4番8号 TEL. 0263-53-5503

プログラム

14:00～15:00

I. 脳卒中とチーム医療

松尾 浩一郎 先生(藤田保健衛生大学医学部歯科 教授)

脳卒中の摂食・嚥下リハビリテーションでは多職種連携が重要となる。急性期から維持期にかけて、その場で携わる職種が適切な評価と対応を実施することで、より効果的な回復が期待できる。一方、連携がうまくいかないと機能回復がうまくできず、必要以上の障害が残ってしまうことがある。今回は、脳卒中の嚥下障害に対してどのような連携を組むことができるのかご紹介していく予定である。

15:10～16:10

II. 脳卒中急性期の対応

馬場 尊 先生(足利赤十字病院リハビリテーション科 部長)

脳急性期の対応は、「廃用症候群・誤嚥性肺炎を防ぐ」の一言につきる。

急性期には6-8割に嚥下障害を認めるとされるが、その主な要因は意識障害である。そして意識障害が改善すると病巣に由来の病態が明らかになる。そのような病態が無ければ自然回復となる。この時期の合併症を防げば多くの症例は改善する。これに有効なのは水・栄養管理、口腔衛生の保持と、安全な手法を評価したもとの直接訓練である。

16:30～17:30

III. 地域で行う食支援

菊谷 武 先生(日本歯科大学 教授)

口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長)

「スプーン一杯でも食べさせてあげたい」「他の子と同じように上手に食べてほしい」こんなぞみをかなえてあげたい。そんな思いから「日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック」は平成25年の10月16日に東京都小金井市に開設された。オープン以来、月に100人を超える患者さんが訪れ、約半数が訪問診療で対応している。本講演では、当クリニックにおける食支援について、在宅診療を中心に紹介する。

参加費：¥1,000

申し込みあるいはお問い合わせは、下記まで。

セミナー事務局 高山典明

一般社団法人塩尻市振興公社

塩尻市大門八番町1-2